

## 中学3年生

# 国際理解・人権・平和 ～21世紀に向けて～

三小田 博昭・鈴木 善晴  
佐藤 喜世恵・原英俊  
川田 基生

**【抄録】** 戦後50年以上経過し、戦争そのものが風化してきている現在。21世紀に向けて戦争を繰り返さないために何が必要か。また同時に、国際平和とは何であろうか、国際平和を現実のものとするためにはどんなことが必要なのかを、フィールドワーク中心に考えた。また中学3年生にとって戦争とは何を意味するのかを問い合わせてみた。

**【キーワード】** 国際理解、フィールドワーク、被害、加害、広島修学旅行、パネルディスカッション

### はじめに

「国際理解・人権・平和」という学年テーマを目前にして、頭に浮かぶのは、異国間でのコミュニケーションであったり、相互理解であったり、広島・長崎であったりとそれを頭に浮かべる年代によって、多岐にわたるであろう。

今年このテーマを基に、学年を引う張っていく担任団は、40代（化学）を筆頭に30代2名（英語）（保健）、そして20代1名（技術）である。年齢的、教科的に比較的バランスはとれているものの、このテーマにかかわっていくためには、全員が専門外ということもあり、年間学習を立てていく上でも、思考錯誤の状態からのスタートであった。学年のはじめに、今年度の総合人間科の方向性は、過去の出来事をしっかりと担任団、生徒ともに学習することを念頭に、それを基盤として、これから訪れる21世紀という時代を「国際理解・人権・平和」という立場から考えていく、ということと一致した。

また、情報化が進む現代において、中学生、高校生はこれからやってくる21世紀を世界中の人々が、みな争い事のない平和な世の中で暮らしていくための第一歩は相互理解であると考える。平和への第一歩は国際理解から始まる。本学年のテーマは、国際理解を通して、平和を学ぼうとするものである。

なお中学3年生における総合人間科は毎週木曜日1時間と第2第4土曜日の2時間である。中高を通して隔週に3時間あるのは中学3年生のみである。これは修学旅行の準備として事前学習に多くの時間をもつためであり、十分に活用しうる。

### サブテーマについて

20世紀は戦争の時代であった。その20世紀も終わりに近づき、そしてその戦争を実体験として語りつぐものも減ってきた。その中で生徒と教官がともに考え、そして実行に移さなければならないものは何なのかを学ばなければならない。情報化が進む現代で中学生、高校生は、これからやってくる21世紀を、世界中の人々がみな争いのない平和な世の中で暮らしていくための中心的存在になるとともに、またそうしなければならない責任がある。国際間の多くの問題を、平和的に解決するための第一歩は、国際理解から始まる。本学年のテーマは、国際理解を通して平和を学ぼうとするものである。その意味でここにサブテーマを設けた。

### 本年度総合人間科の目標

過去の戦争の事実をグループで調査研究することを通して、個人が事実を認識し戦争というものを追体験する。そしてそれを基本に「平和とは何なのか」、「戦争とは何なのか」「なぜ国家間に争いがおこるのか」を生徒一人ひとりが自分なりの考え方を持つ。その発展として「どうしたら平和な国際社会を築けるのか」について、自分の意見を持ち、発表し、意見をお互いに交換することによって、クラスメートの考え方を理解し、ひいては他国の人たちの気持ち、考えかたについて知ることを目標とする。

**年間学習計画**

## 1学期

地元の名古屋市内および近郊における戦争の被害を

フィールドワークを中心に学習することにより、戦争が遠い昔のものではなく、身近なものであることを生徒個人が感じるとを目標とする。またこれから1年間学習していくためのきっかけをつかむ。

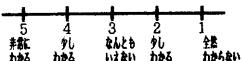
日時	内 容	活動場所
4月15日(木)	各クラスにてホームルーム	各クラス
4月17日(土)	3限目 オリエンテーション ・ 1年間の流れを保護者、生徒に伝える ・ 保護者、生徒にアンケート（資料1）を行う	図書館
4月22日(木)	討論会 I 各教官（4名）と生徒20名づつ 討論テーマ 国際理解と平和に沿った討論しやすい簡単なテーマで各教官主導のもとで討論する。 目的 公開授業（2月）の時に各クラス、または全体で討論ができる目標として行う。	クラスA クラスB 技術室 化学室
5月 6日(木)	討論会 II 22日とは違う教官のもとで、違うテーマを題材に討論する。	前回と同じ
5月13日(木)	討論会 III 22日、6日とは違う教官のもとで、違うテーマを題材に討論する。	前回と同じ
5月15日(土)	3限目 名古屋市内の戦争史跡研究（全体） フィールドワークに向けてのオリエンテーション 名古屋空襲に関するビデオ鑑賞 4限目 名古屋市内の戦争史跡研究（個人） 例) ・地元地域の被害状況研究 ・地元小学校の学童疎開状況研究 ・熱田空襲研究 ・市内軍事施設研究 ・名古屋城被害の様子 ・元戦闘機製造工場研究 などを個人で探す	図書館
5月27日(木)	名古屋市内の戦争史跡研究（個人）Ⅱ 資料集め	各クラス
5月29日(土)	名古屋市内の戦争史跡研究（個人）Ⅲ 資料集め まとめ小冊子作成①	各クラス
6月 3日(木)	フィールドワーク 準備	各クラス
6月 5日(土)	フィールドワーク I (資料2) 名古屋市内の戦争史跡研究実地調査	校外活動
6月10日(木) 教育実習中	学年（80名）を4つのグループに分けフィールドワークの発表会を行う。発表だけに終わらず、活発な意見交換を期待する。	各クラス 技術 化学
6月17日(木) 教育実習中	名古屋大学元教授 安川先生より戦争中を含む日本が行ってきた加害の面を中心にお話ををしていただく。	図書館
6月19日(木) 教育実習中	名古屋大学元教授 安川先生を含む地元のお年寄り5名（不戦兵士の会）を招き、戦時中の体験談を加害の面から話していただく。	各クラス 小教室
6月24日(木)	6月19日のまとめをし、小冊子にまとめる② 小冊子①②を1冊に製本し個人に配布する（後日）	各クラス
7月 8日(木) 4限短縮中	討論会 IV 4月、5月より発展的に討論ができるようにする。	クラスAB 技術 化学
7月15日(木) 4限短縮中	討論会 V 4月、5月より発展的に討論ができるようにする。	クラスAB 技術 化学
7月 8日(木) 4限短縮中	討論会 VI 4月、5月より発展的に討論ができるようにする。	クラスAB 技術 化学

## 資料1

第 回 総合人間科 月 日  
国際理解と平和  
アンケート

## A 国際理解と平和について

- (1) 国際理解と平和という言葉を耳にして何を意味するのかわかる。



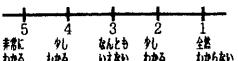
- (2) (1)で5、4と答えた人は具体的にその内容を書いて下さい。

---



---

- (3) 国際理解と平和という言葉を耳にして自分がそのために何をしたらよいのわかる。



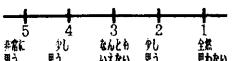
- (4) (3)で5、4と答えた人は具体的にその内容を書いて下さい。

---

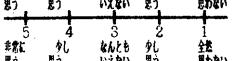


---

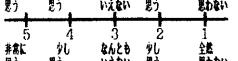
- (5) 国際理解と平和を学習するためには、まず現在の日本のことをしなければならないと思う。



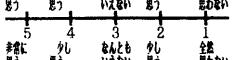
- (6) 国際理解と平和を学習するためには、まず過去の日本のことをしなければならないと思う。



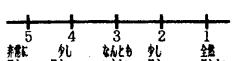
- (7) 国際理解と平和を学習するためには、まず現在の世界情勢のことを知らないければならないと思う。



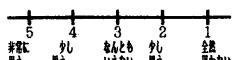
- (8) 国際理解と平和を学習するためには、まず過去の世界情勢のことを知らないければならないと思う。



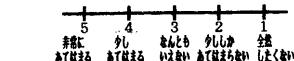
- (9) 世界の他の国のこと理解することは世界の平和を維持するのに役立つことだと思う。



- (10) 日本のことを世界の他の国の人たちに理解してもらることは世界の平和を維持するのに役立つことだと思う。



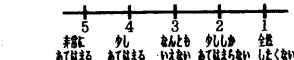
- (22) 実際に海外へいって他の国の人たちと交流をはかりたい。



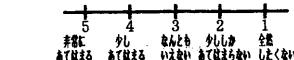
- (23) (22)で5、4と答えた人は具体的に他の国とはどの国を指しますか。いくつでも答えて下さい。

---

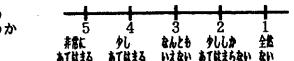
- (24) 街頭で国際平和などの世界情勢について話している人がいるといついついその話を聞き入ってしまう。



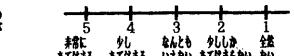
- (25) 国際平和などの世界情勢についてなげなく考えてしまうことがある。



- (26) 国際理解をすることや世界平和のためにどんなことをしたらよいのかわからない。



- (27) 国際理解をすることや世界平和のために何か行動を起こしたことがある。



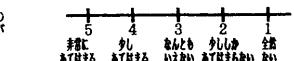
- (28) (27)で5、4と答えた人は具体的にその内容を書いて下さい。

---

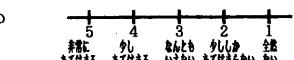


---

- (29) 国際理解をすることや世界平和のために何か個人で学習したことがある。



- (30) 国際理解をすることや世界平和のために講演会や話し合いの場に参加したことがある。



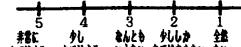
- (31) 国際理解をするために私たちがしなければならないことは何だと考えますか。

---

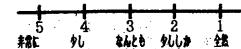
- (32) 国際理解をするために私たちが欠けていると思うものは何だと考えますか。

---

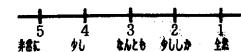
- (11) これまで学校で国際理解のことや世界平和のことについて学んだことがある。



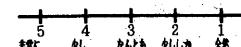
- (12) これまで学校以外で国際理解のことや世界平和のことについて学んだことがある。



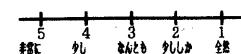
- (13) 家庭で世界情勢について話題を投げかけられたことがある。(保護者の方はご子息に)



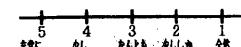
- (14) 友達から世界情勢について話題を投げかけられたことがある。



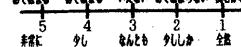
- (15) 家族以外のお年寄りの方から世界情勢について話題を投げかけられたことがある。



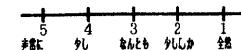
- (16) 新聞で世界情勢の話題があるページを読んだり、見たり、気にとめたりする。



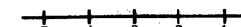
- (17) テレビで世界情勢が話題になると、見たり、気にとめたりする。



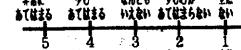
- (18) 家庭で世界情勢について話題を投げかけたことがある。(保護者の方はご子息に)



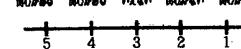
- (19) 友達に世界情勢について話題を投げかけたことがある。



- (20) 海外で起こっている被害、災害、事件、事故について関心がある。



- (21) 国際理解をするために自分で何か行動をおこさなければいけないと感じてしまうことがある。



## 回答欄

(1) \_\_\_\_\_

(2) \_\_\_\_\_

(3) \_\_\_\_\_

(4) \_\_\_\_\_

(5) \_\_\_\_\_ (6) \_\_\_\_\_ (7) \_\_\_\_\_ (8) \_\_\_\_\_ (9) \_\_\_\_\_

(10) \_\_\_\_\_ (11) \_\_\_\_\_ (12) \_\_\_\_\_ (13) \_\_\_\_\_ (14) \_\_\_\_\_

(15) \_\_\_\_\_ (16) \_\_\_\_\_ (17) \_\_\_\_\_ (18) \_\_\_\_\_ (19) \_\_\_\_\_

(20) \_\_\_\_\_ (21) \_\_\_\_\_ (22) \_\_\_\_\_ (23) \_\_\_\_\_ (24) \_\_\_\_\_

(25) \_\_\_\_\_ (26) \_\_\_\_\_ (27) \_\_\_\_\_

(28) \_\_\_\_\_

(29) \_\_\_\_\_ (30) \_\_\_\_\_

(31) \_\_\_\_\_

(32) \_\_\_\_\_

## 1学期を振り返って

1学期は討論、フィールドワークを中心として主に戦争における加害の側面を中心に学習することを目標に行なった。はじめ生徒たちは戦争ということを考えるに当たっては、被害の面を考えがちな傾向にあったが、それは戦争加害の側面にこれまで接する機会が少なかったことが原因にあげられる。

### 資料1

組	個人テーマ	訪問先	組	個人テーマ	訪問先
A	自衛隊	守山自衛隊	B	名古屋空襲の状況	名古屋城
A	名古屋都市計画	名古屋都市センター	B	名古屋市の復興都市計画	市政資料館
A	戦争中の暮らしについて	祖父の家	B	戦争の被害について	熱田神宮
A	神風特攻隊草薙部隊	豊田市浄水開農神社	B	熱田空襲について	愛知時計
A	燃えた名古屋城	名古屋城	B	戦争中の生活	祖母の家
A	戦前の日米戦闘機	各務原航空博物館	B	戦争と名古屋城	名古屋城
A	市民が見た戦争	祖父の家	B	戦争と平和	守山自衛隊
A	戦争中三菱重工のありかた	三菱資料館	B	戦時中の小学生の生活	祖母の家
A	学区内での疎開状況	学区内のお年より	B	戦争と名古屋城	名古屋城
A	熱田空襲の会	熱田空襲の会	B	名古屋の空襲愛知時計	熱田空襲の会
A	戦争の悲劇	大須観音近辺の住民	B	熱田空襲について	熱田神宮
A	熱田空襲関連	熱田神宮	B	戦争を体験した人の話	知人宅
A	生徒の戦時中の生活	西陵高校	B	戦争について	守山自衛隊
A	戦争の悲劇	祖母の家	B	熱田空襲の被害	熱田神宮
A	熱田空襲関連	楣山高校	B	自衛隊にいろいろ聞く	守山自衛隊
A	民間企業の軍需協力	三菱資料館	B	名古屋市の戦争の爪跡	博物館
A	熱田空襲	熱田空襲の会	B	自衛隊と接する	守山自衛隊
A	名古屋に残る戦争の爪痕	博物館	B	戦争中の事について知る	祖父の家
A	名古屋都市計画	名古屋都市センター	B	止められた時計	熱田空襲の会
A	熱田空襲の悲惨さ	熱田神宮	B	神風特攻隊草薙部隊	豊田市浄水開農神社
A	生徒の戦時中の生活	西陵高校	B	戦争について知る	祖父の家
A	名古屋の戦後の復興	名古屋都市センター	B	身近な人の戦争体験	祖父母の家
A	戦争の傷跡	大須観音近辺の住民	B	熱田空襲	熱田神宮
A	名古屋城が焼けて燃えた	名古屋城	B	熱田空襲について	熱田神宮
A	戦争と名古屋城	名古屋城	B	戦時中の名古屋について	博物館
A	戦時中の兵隊	祖父 祖母の家	B	戦時の名古屋市の被害	博物館
A	平和と幸福	知人宅	B	名古屋の戦争のこと	守山自衛隊
A	熱田空襲の恐怖	熱田神宮	B	熱田空襲について	愛知時計
A	戦争の時の子供	学区内の人	B	名古屋城の戦後の復興	名古屋城
A	熱田空襲	熱田空襲の会	B	名古屋城が焼けて	名古屋城
A	戦争しらべ	守山自衛隊	B	自衛隊と戦争	守山自衛隊
A	熱田空襲	熱田空襲の会	B	戦争と名古屋城	名古屋城
A	熱田空襲関連	楣山高校	B	熱田神宮の被害	熱田神宮
A	名古屋防空隊	城山城跡昭和堂	B	燃えた城	名古屋城
A	名古屋空襲の被害と暮らし	名古屋市政資料館	B	戦争と自衛隊	守山自衛隊
A	戦時中の三菱	三菱資料館	B	熱田空襲について	愛知時計
A	戦争時代の学校生活	知人宅	B	戦後の名古屋都市計画	名古屋都市センター
A	熱田空襲	熱田空襲の会	B	身近な地域の戦争の様子	学区内のお年より
A	兵器工場の被害	千種公園	B	悲劇を調べる	熱田空襲の会
			B	熱田空襲について	愛知時計

フィールドワーク実施についても、戦争の爪痕を研究するのであるが、訪問先や調査対象が加害的な側面よりは、むしろ被害的な側面についての研究が多かった。教官側も今回のフィールドワークを加害の面のみに絞りなさいという指示を生徒に強いらなかつたために、比較的訪問箇所を探しやすい被害的側面を研究対象とした生徒が多数いた。

## (フィールドワークを終えて生徒の感想)

訪問先 熱田空襲 女子

小島さんにインタビューしてだいぶたってからこのまとめをしていても、書いていると次々と当日の小島さんが話していたことが出てきた。それほど印象深かったし、話が理解できた。特に印象深かったものは、聞いた短歌にもあったのだけれど、片腕をもつ友人に話しかけたある人が応答ないのでちょっとさわったら、川の中に落ちた。その人は死んでいた（たったまま）という話でした。

訪問先 杉山八重子さん（学区内の人）女子

今回、杉山八重子さんにインタビューして思ったのが、戦争中の生活状況が想像よりはるかにひどかったです。食料などは、農家の人と物々交換していたのですが、覚王山のあたりの人々は農家の人と仲が良かったので、苦勞はしなかったが、他の地域の人たちは大変だったそうで、そのため農家の人たちが、いばってしまったそうです。こんなことがあったなんて思いもしなかったのでびっくりしました。覚王山は全然被害にあってないそうです。それもびっくりしたことの一つです。また機会があったら話を聞きたいです。

訪問先 野村さん（大須観音近所の人）女子

フィールドワークで野村さんにインタビューしてみて一番心に残っていることは野村さんが広島に原爆が落とされてよかったとおっしゃっていたことです。私はその考えにどうしても共感いたしかねます。もちろん野村さんが戦争に苦しめられて一日でも早く終わって欲しいと思っていた、原爆ではやく終わったということは嬉しいことであったということはわからなくもありません。でも、でも原爆では何万万人が涙を流しました。（中略）また野村さんは「人間に欲がある限り戦争というものはなくならないだろう」とおっしゃいました。私はその言葉を聞いて悲しくなりました。それは本当のことかもしれません。それでもやっぱり人間はそんなに醜いものではないと、愛し合うことのできるすばらしい生き物だと、そう思いました。

(6月17日)

安川先生の話を聞いて生徒の感想

安川先生の話を聞いて一番印象に残ったのは、日本

人の戦争認識が被害意識に偏向している、ということです。今まで戦争について私たちもアメリカなどの連合国にひどいことをいろいろされた、原爆を落とされたなどしか頭になく、日本がアジアの人たちに対してしてきたことはあまり知りませんでした。未来責任などについても初めて聞き、これからは私たちも「戦後生まれだから関係ない」というのではなく、戦争責任について考えていいきたいと思いました。日本も国としてきちんと謝罪し、然るべき補償をするべきだと思います。安川先生の話はとても勉強になりました。私たちもこれを機に、日本の加害の面や、未来責任について考えていいきたいと思います。そして二度とあのような戦争が起こらないようにしたいと思います。

(6月19日)

不戦兵士の会メンバーの話を聞いて生徒の感想  
男子

日本の兵士が戦争中、他国だけでなく生活を圧迫するという形で国民である子供や女性、老人に加害を加えたことは僕自身知っていました。しかし花房さんの話を聞く限りでは戦争に行っていない男性や軍人の人も、軍や政府に色々な意味で苦しめられたのではないかと思います。だからそんな意味でも国民を巻き込んだ戦争はこれからも絶対あってはならないと思います。

男子

今回の近藤さんのお話は今まで聞いて感じたものとは少し違った気がした。それは自分の心にうそをついていないという感情と戦争を2度と起こしてはいけないという気持ちが僕達の心の底にビシビシと伝わったからだ。今まで戦争とはただ怖いものだという印象だったのが、本当に体が震えてつい話しを聞いただけで、涙するくらい辛く、恐ろしいものになりました。これからこの話しを次の世代に伝えるチャンスをくださってどうもありがとうございました。

## 2学期

修学旅行で広島を訪れるにより、戦争が私たちに及ぼす影響を体験する。また被害の面だけでなく、大久野島を訪問することで、戦争加害の面をも学び、被害と加害の両側面から戦争というものを身近なものとしてとらえ考える。

日時	内容	場所
9月4日(土)	広島修学旅行オリエンテーション 旅行全体説明(15分)・原 写真提示・投影・三小田	図書館
9月9日(木)	広島学習	図書館
9月16日(木)	10フィート運動 はだしのゲン	図書館
9月18日(土)	原爆についてのビデオ3本 原爆資料館について	図書館

9月30日(木)	学校祭	
10月2日(土)	3時間目 修学旅行班決め 4時間目 資料配布 フィールドワーク決め (資料3)	各クラス
10月7日(木)	訪問先決定(班別) アポ取り	
10月14日(木)	訪問先決定(班別) アポ取り	
10月16日(土)	3時間目 部屋割り 新幹線座席決め 4時間目 斑内係り決め 係別集会 班長・化学室 研究・3A しおり・視聴覚室 レク保健・3B	各クラス
10月21日(土)	訪問事前学習	各クラス
10月28日(木)	・ 訪問して何を調べるのか 11月25日 12月2日でどのように発表するか、その方法を考える。	各クラス
11月4日(木)	・ またそのために訪問先でどんな学習をするか考える。	各クラス
11月6日(木)	発表予定を斑単位で提出	各クラス
11月10~12日	修学旅行中 (資料4)	
11月18日(木)	修学旅行研究発表準備 機器準備・佐藤	各クラス
11月20日(土)	修学旅行研究発表準備 機器準備・佐藤	各クラス
11月25日(木)	修学旅行研究発表 (各斑15分程度)	図書館
12月4日(土)	修学旅行研究発表 保護者 学生 助言者参観	図書館
12月9日(木)	修学旅行研究発表	各クラス
12月16日(木)	報告集作り	各クラス

### 名古屋大学教育学部附属中学校 修学旅行日程表

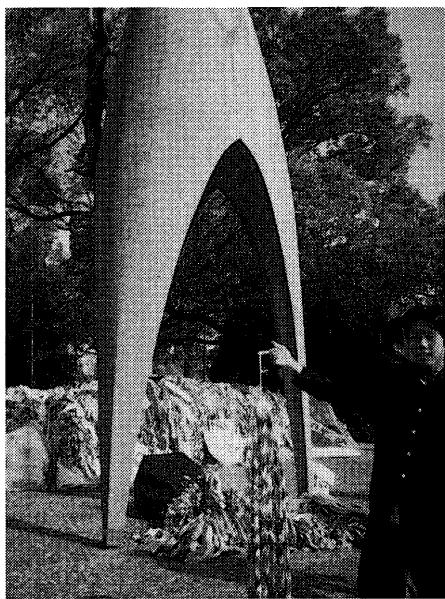
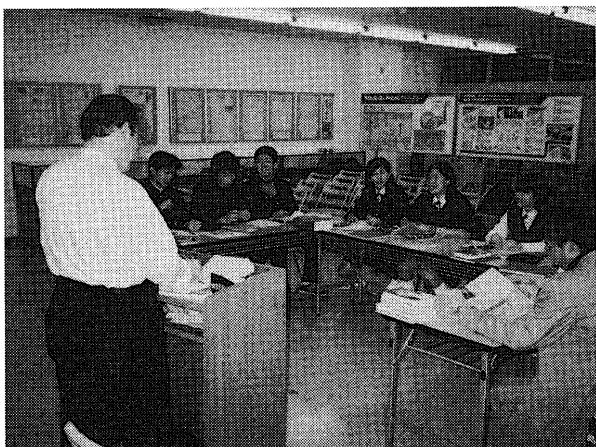
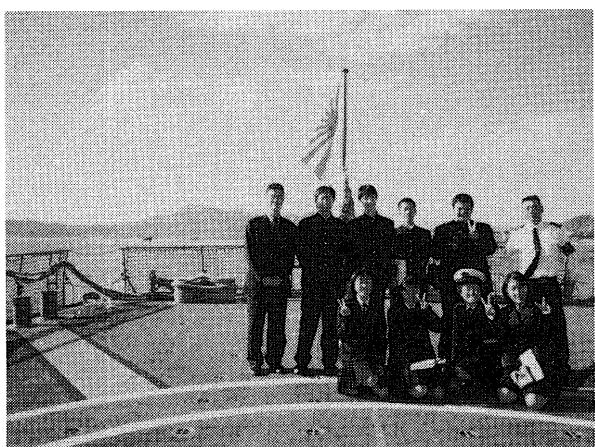
●旅行先：広島

●旅行日：平成11年11月10日(水)～11月12日(金)【2泊3日】

月・日・曜	行 程
11月10日(水)	(集合) JR名古屋駅 ひかり101号 (各自) メディアワン 名古屋 → 広島 (班別自主研修) 宮島口 ← 宮島 宿舎(泊) 8:09 11:06 11:20 17:30頃
11月11日(木)	(集合) 宿舎 → 故島神社 宿舎 → 宮島桟橋 ← 宮島口 8:00 9:30 9:50頃 10:00 10:10 — 平和公園 [11:30～11:50 平和セレモニー] 11:10 14:30 [12:00～12:30 写真・弁当] [12:30～13:30 平和祈念資料館] 13:30～14:30 平和公園内散策 — 大久野島 宿舎(泊) 16:25 16:30 16:00 16:15
11月12日(金)	11:50まで島内 フリータイム 昼食 12:00～12:30 講話(前毒ガス資料館 館長 村上 氏) 12:30～13:00 毒ガス資料館 13:00～13:40 大久野島 ← 三原港 ← 三原駅 ← 福山 ← 名古屋 13:50 14:30 14:45 15:11 15:32 15:47 18:16

(凡例) JR: — バス: ————— 船舶: ~~~~ 徒歩: -----

修学旅行中のスナップ写真



平和セレモニーにおける平和宣言文（全文）

## 平和宣言

1999年11月11日

名古屋大学教育学部附属中学3年一同

代表 寺田 智香子

私たちは戦争や原爆について学習し、戦争の無惨さをあらためて知りました。そして、皆が“二度と過ちは繰り返さない。”という決意を胸に、ここ広島にやってきました。

私たち人類は、無抵抗の全生物の命を奪ってしまう恐ろしい核兵器をつくり、それを戦争に利用しました。そしてこの広島に落とされ、広島の町は廃墟とかしました。自然は滅び、人々はこの兵器の前になす術も無く、傷つき倒れていったのです。その被害に今も苦しんでいる人が大勢います。この事実を世界の人々は知っているのでしょうか？今や知っている人は、一体どれくらいなのでしょうか？

この原爆ドームは、皆さんご承知の様に世界遺産に登録されました。その時の事を覚えていますか？日本が登録を申請したとき、すぐに受け入れられましたか？「戦争の傷跡など残すべきではない」と反対されたのを覚えていますか？なぜ反対されたのでしょうか。私たち人類のしたことを忘れないためにも、これを残さなければいけないのではないか。原爆投下から半世紀以上たった今でも、日本が原爆の犠牲となつた事実を受け止め、平和に対する想いを再確認できるのは、この原爆ドームのおかげだと思います。世界遺産に登録することにより、その意志がさらなるものとなつたことでしょう。

今日11月11日は世界平和記念日です。平和とは一体何なのでしょうか。争いの無い、核兵器の無い世の中、それが平和なのです。しかし、残念な事に、これだけ核廃絶を訴えている今でもこの地球上に核兵器は存在します。私たちは、それを許してよいのでしょうか。唯一の被爆国日本に生まれた私たちは、核兵器がこの地球上から無くなるまで、決して許してはいけないです。また過去の様な悲劇を繰り返さない為にも、私たちの子ども、孫、その子々孫々に至るまで、この悲劇を語りつがなければいけません。そして世界にも訴えなければいけないです。そのことにより、いつの日か核兵器が無くなり平和な世が訪れ、何の心配も無く暮らせる日々が来るでしょう。その日まで核廃絶を共に訴えましょう。



資料3 各班のフィールドワーク行程一覧

A 程度 1 班

研究テーマ		被爆後の状況	
研究のねらい		当時の国民学校をみる	
班長	坂井田淳	副班長	伊藤知弘
研究	山田花海	研究	横川崎裕一郎
しおり	伊勢美	実行委員	清原菜那
行 程	レク	松元一将	集録
	船浦史恵		
広島駅	＝	袋町小＝	
11:20	11:50	11:10～13	
二	広島市旧庁舎	＝ 宮島口～～宮島～～宿舎	
3:00	4:00	4:50	5:10～3
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
袋町小学校	中区袋町6-36	082-247-9241	
広島市旧庁舎	アバニゼーション (見学自由)		

A 程度 2 班

研究テーマ		自衛隊を知る	
研究のねらい		戦前の軍隊と戦後の自衛隊を知る	
班長	南陸真奈美	副班長	永井穂子
研究	横井正行	研究	黒川明子
しおり	羽藤柳一郎	実行委員	吉田早希
行 程	レク	長谷川弘幸	集録
	船浦史恵		
広島駅	＝	海上自衛隊	＝
11:48	12:33	12:50～14:30	14:59
一	広島駅	＝ 宮島口	200円 宮島
15:39～15:41	15:39～16:20	16:30	19:00
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
海上自衛隊呉地方	広島県呉市昭和町	0823-22-5511	
総監部			

A 程度 3 班

研究テーマ		放射能について	
研究のねらい		放射能の影響の恐ろしさと知識をもつ。	
班長	堀内綾乃	副班長	竹内祐子
研究	竹内祐子	研究	黒川 順
しおり	横田憲昭	実行委員	諸永成紀
行 程	レク	吉野良	集録
	磯部かひな		
広島駅	＝	路面電車	JR → バス
11:20	11:30	12:00～13	
云	比治山下	＝ 比治山公園 (現代美術館)	
広島駅前	（15:01）	（12:00～13:00）	
まんが図書館	（15:01）	（15:01）	（15:01）
二	宇品	＝ 宇品	広島港 宮島 宿舎
4:55	（20分）	（3:00～4:00）	5:20
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
天理大学原爆放射能			
医学研究所	広島市南区翠1丁目2-3	082-257-5802	

A 程度 4 班

研究テーマ		あれ...記者が現た広島	
研究のねらい		あれ...原爆の報道のこれ方を知る	
班長	山本無以	副班長	野口舞
研究	吉岡めぐみ	研究	黒川涼子
しおり	鈴木あや	実行委員	田中翔子
行 程	レク	水野雄史	集録 原康晃
	磯部かひな		
広島駅	＝	上橋	＝ 平和公園(ビデオ撮影) ＝
		（12:00）	原爆ドーム (15:00)
		（12:20～14:00）	
		（17:30）	（17:15）
		（17:05）	（16:29）
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
中国新聞社	行730-8677 中国新聞社編集局	082-236-2111	

A 程度 5 班

研究テーマ		"Love" and "Peace"	
研究のねらい		愛と平和を求める	
班長	佐久友美	副班長	橋島ゆみ
研究	阿部真	研究	河合晴子
しおり	網木真人	実行委員	中村浩之
行 程	レク	柏原敬	故郷
	西浦碧己		
広島駅	＝	三原駅	JR → バス
11:25	11:45	12:00～13:50	
（11:30）	（12:00）	（13:00～14:00）	
		（14:05～15:00）	（14:25～15:30）
			（15:30～16:30）
			（17:30～18:30）
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
近隣	（住職）	広島市西区三滝山4-11	082(237)0811

B 程度 1 班

研究テーマ		原爆の傷跡を語る	
研究のねらい		原爆の被害者についてくわしく語る	
班長	磯部真与	副班長	浅野貴裕
研究	安吉良	研究	吉村良
しおり	安庭麻美	実行委員	食鳥あやか
行 程	レク	三好和	集録 石田百合子
		（12:00～13:00）	
		（13:00～14:00）	
		（14:00～15:00）	
		（15:00～16:00）	
		（16:00～17:00）	
		（17:00～18:00）	
		（18:00～19:00）	
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
袋町小学校	中区袋町6-36	082-247-9241	

B 程度 2 班

研究テーマ		軍港・呉	
研究のねらい		駆逐艦大和が造られた海軍の町について知る	
班長	川本直実	副班長	金子恵介
研究	中野慎也	研究	黒田葉子
しおり	山辺真理	実行委員	中野雅美
行 程	レク	伊藤悠起	集録 西村幸一郎
広島駅	＝	入船山記念館	JR → バス
11:30	11:50	2時内	13:57
			14:22
			（14:40～15:20）
			（16:43～17:20）
			（17:10～17:20）
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
呉市入船山記念館	広島県呉市	0823-21-1037	

B 程度 3 班

研究テーマ		戦争	
研究のねらい		色々な人の話を聞いて広島の過去を総括する	
班長	中嶋健人	副班長	玉田葉月
研究	佐藤充	研究	佐藤利子
しおり	土屋優佳	実行委員	木田樹
行 程	レク	土岐明實	集録 中村沙弥子
広島駅	＝	駅周辺散策	リフトン ... 広島平和記念館
11:30			1:00
			2:30
			（14:40～15:20）
			（16:43～17:20）
			（17:10～17:20）
訪問先 (相手名)	住所	電話番号	
オリファン	広島市東区二葉の里1-1-5	082-263-6405	
広島平和教育研究所	広島市東区光町8-32 エコート広島3F	082-264-1751	

## B組 4班

研究テーマ	広島の平和について		
研究のねらい	平和について考える		
班長 木本 拓	副班長 山下 真由	研究 佐藤 反則	歴・健 浦野 桂
しおり 鬼頭 麻子	実行委員 寺田 智子	レク 小島 美弓	集録 城山 英之
訪問先（相手名）	住所	電話番号	
世界平和記念聖堂	〒730-0016 広島市中区城町4-42	(082)221-0621	

## B組 5班

研究テーマ	原爆について知る		
研究のねらい	被爆者に話を聞きたいのです。		
班長 山口 寛生	副班長 谷 花菜子	研究 高岡 重衣	歴・健 竹内 知子
しおり 山根 猛子	実行委員 伊藤 博人	レク 宮野 勝史	集録 近藤 宏和
訪問先（相手名）	住所	電話番号	
沼田 鶴子	〒732-0044 東区矢賀新町4丁目6-24	082-282-6584 010-1180-0399	

## 修学旅行感想

## 3班（女子）

私たちは広島大学放射能医学研究所を訪問して改めて原爆の恐ろしさを知ることができました。そして私は余計に悲しくなりました。人間が原爆を考え出したということが。人間が人間をあんなにも苦しめることができます。原爆がおちて戦争が早く終わったという人もいますが、それがたとえ本当だとしても、私にはそんな風に考えることができません。原爆の恐ろしさを、人々の苦しみを悲しさを知ってしまったからです。もしも原爆が落とされなかつたら、私たちは戦争についてこんなにも考えることはなかったかもしれません。もしも戦争が起こらなかつたら、私たちは“平和”ということさえ考えもしなかつたでしょう。でもそうではありません。戦争がありました。原爆が落とされました。それによって戦争はやってはいけないと教えられて。それで十分です。戦争をしなければいいのだから。それは本当はとても簡単なこと。

## 4班（男子）

今回のインタビューによって広島の原爆の悲惨さがよくわかった。今までかわいそだなあというような簡単なことしか考えたことがなかったが、このインタビューをしたおかげで、原爆直後の様子や、被害の大きさがよくわかり、微妙に深く考えるようになった。原爆直後の写真を見たときには、ちょっとゾッとした。もしあの場に自分がいたらどうなつていたかと考えると怖くてたまらない。いまでもビデオなどで見てきたが、実際の様子をあんなにじっくりみたのは初めてだったので、気持ち悪いといったのと同時にひでーと思った。中国新聞社でもらった資料もそういった当時の様子についてのことが多く、皮膚がはがれてぶら下がっている人や、死んでうじのわいている人、原爆によって発生したキノコ雲のような、悲惨な様子の写真が多く、これら

を見ていると暗い気持ちになってしまう。このように多くの被害をだす原爆などは2度とつかってはいけないと強く思った。

## 1班（男子）

今回の修学旅行で訪れた場所は戦争や広島の原爆に関係の深い、印象的な所がほとんどだった。事前学習だけでは当時のその場の重々しい雰囲気までは伝わってこなかった。そしてそういう所へはなかなか行けないこともあって、とても貴重な体験ができる研究旅行だったように思う。袋町小学校への訪問や語り部の方々の話しなど、被爆した人々、物からの「証言」を大切にして、これからも平和学習をがんばっていきたい。

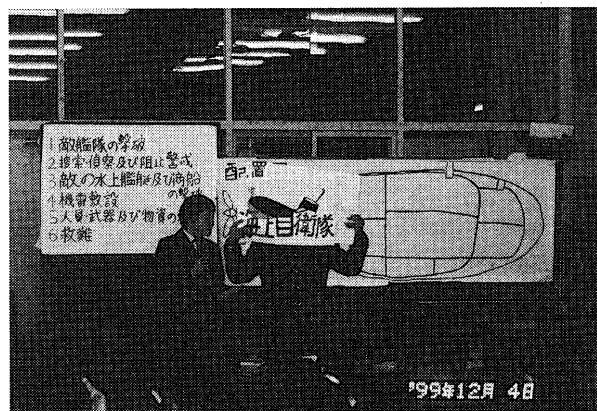
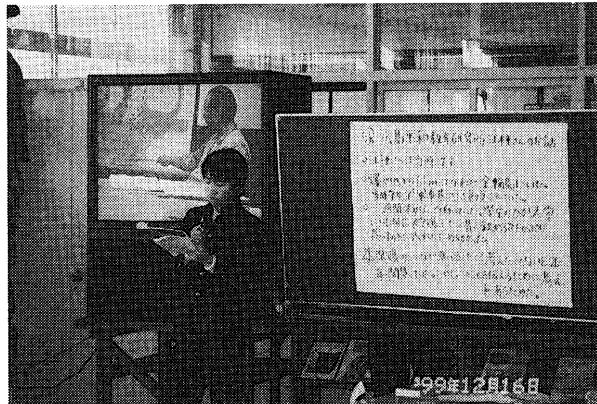
## B-5班（男子）

僕たちの班はフィールドワークで沼田さんの話を聞きました。沼田さんは被爆したということで、実際に原爆を体験した人から話しを聞けることをとても楽しみにしていました。話しを聞いていると沼田さんがつらい人生を送ってきたことがはっきりとわかりました。沼田さんは希望をもって、今まで生きてきました。希望という大切さを改めて教えてもらいました。

## 修学旅行研究発表会（11月25日 12月4日、9日）

3回にわたり、広島における各グループの研究発表会が開催された。発表は、発表グループがパネラーとなりパネルディスカッション形式で行われた。この発表会には保護者の授業参観も兼ね、多数の保護者や名古屋大学の学生、院生が参加し、意見の交換がなされた。パネラーの方も原稿を読むのではなく、発表形態に凝り、紙芝居形式、演劇形式、人形劇形式、クイズ形式、ビデオレター形式など、多用な発表をし、視聴覚機器をいかに有効利用して発表するかも目的のひとつとして実施した。

修学旅行研究発表の様子



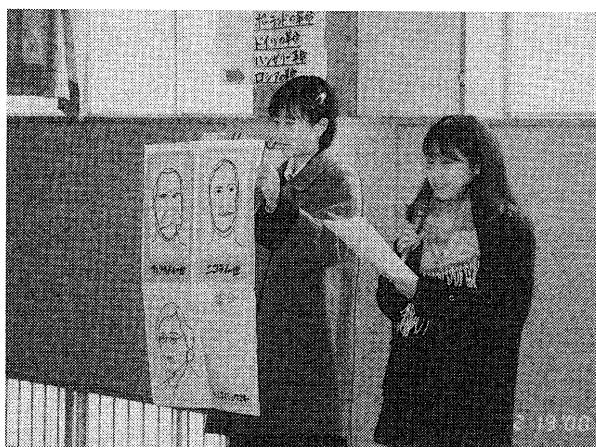
### 3学期

2学期の研究発表会をもとに、平和についての意見交換やグループ討論会に重点を置く。また過去のこと

を1、2学期に学んできたのだが、3学期をそれに基づき、これから国際社会、国際的平和のあり方を学年全体で考えていくことを目標にする。

日時	内容	場所
1月13日（木）	各班で修学旅行発表時に返してもらったフィードバック用紙を点検。よかったです、悪かった点別に模造紙にまとめる。	各クラス
1月15日（土）	センター試験のため自宅学習	
1月20日（木）	中学入試のため自宅学習	
1月27日（木）	各班で戦争の原因になる要素には何があるかを調べ意見を班内で交換する。	各クラス
1月29日（土）	前回の続き。またその原因を回避したり、解決していくにはどうしたらいいのかを班中心に考え、意見を交換する。	各クラス
2月3日（木）	高校入試のため自宅学習	
2月5日（土）	前回でまとめた各班の意見を全体の場で発表する準備をする。単に口頭での発表にとどまらないように工夫する。	各クラス
2月10日（木）	前回の続き	各クラス
2月17日（木）	前回の続き	各クラス
2月19日（土）	全体の場での発表	小体育館
2月22日（火）	研究協議会（資料5）	小体育館
2月24日（木）	クラスで活動	各クラス
3月2日（木）	学年末試験	
3月4日（土）	クラスで活動	各クラス
3月9日（木）	高等学校合格者指定出校日	
3月16日（木）	研究論文集配布。第2回アンケート実施	各クラス
3月18日（土）	終業式	

2月19日（土） 全体発表の場でのスナップ写真



## 研究協議会について

2月22日本校において中等学校研究協議会が行われた。ここでの本学年の内容は以下に資料5として記してあるように実施されたが、中心は、1学期の活動報告、2学期の活動報告に続き、ショコラと命名された有志のグループが独自にドイツの学生とメールによって交流したその活動報告を行うという3つの柱で構成された。そして、まとめとしてその3つの報告をうけ、これからの中等学校社会全体（生徒、保護者、大学院生、留学生、参観者）で話し合おうとするものであった。

3つの報告で特に生徒が工夫したことは、その発表の方法であった。以下にその発表形態を簡潔に述べておく。

### 1学期の活動報告にあたって。

- ・発表に寸劇を取り入れた
- ・戦時中の食事を実際にその場でつくり試食という方法で再現した。

### 2学期の活動報告にあたって。

- ・修学旅行の報告を中心パワーポイントでまとめあげ、プロジェクターを利用した
- ・ショコラの活動報告にあたって。

- ・ショコラのホームページを作成
- ・ドイツ学生とのメールを実施

以上のように、今回の研究協議会にあたり、模造紙にたよる以上の、さまざまな発表形態を工夫し実施することに大きな重点がおかれて、とり行われた。

## 資料5

### 研究協議会指導計画

2000年研究協議会学習指導案

1999年12月2日

授業者 原 英俊 三小田博昭  
鈴木 善晴 佐藤善世恵  
川田 基生

日時 2000年2月22日（火）10：30～12：00

場所 小体育館2階

1 研究主題 国際理解と平和

2 題目 21世紀に向けて

3 題目について

これまでの総合学習では、戦争による被害、そして加害に主眼が置かれてきた傾向にある。もちろん以上のことは国際理解と平和について学習するためには不可欠なことであるのは言うまでもない。21世紀を間近に迎えた今、過去の体験をどのように将来に生かしていくことがさらなる課題であると考え、ここにその主題を設定した。

4 指導課程

- 1学期 名古屋における戦争の被害を学ぶ
  - ・フィールドワークから被害を学ぶ
  - ・戦争体験者から加害を学ぶ
- 2学期 広島の修学旅行から学ぶ
  - ・フィールドワークから被害を学ぶ
  - ・大久野島で毒ガス使用の加害を学ぶ

## 3学期 これからの国際平和社会を考える

## 5 本時の授業

## (1) 目標

- ① 過去の戦争を加害、被害の両側面から再学習し、それを基盤に、これから国際平和を考えさせる
- ② パネルディスカッションを通して意見の交換ができるようにする
- ③ 事前学習や発表に必要な機器の使用ができるようにする

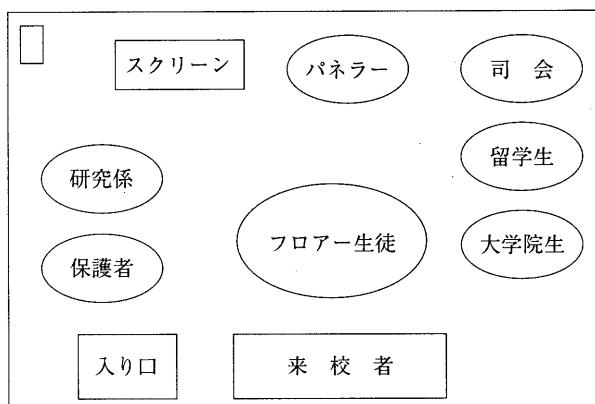
## (2) 授業形態 パネルディスカッション

海外とのメール交換を基本に、ドイツの子どもたちが考える国際平和と本校の生徒が考える国際平和のありかたを、保護者、大学院生、留学生の立場から意見を出し合い、ひとりひとりの平和認識や感覚を問う。

## 6 本時の指導計画

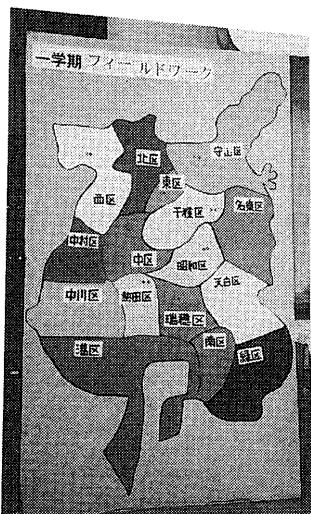
時間経過	指導過程	担当生徒
導入Ⅰ 15分	<b>1学期のまとめ</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① フィールドワークについて</li> <li>② 戦争体験者からの話について</li> </ol>	A組 研究係 指導 佐藤
導入Ⅱ 15分	<b>2学期のまとめ</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 広島でのフィールドワークについて</li> <li>① 広島での原爆被害者からの話について</li> <li>① 大久野島での加害状況について</li> </ol>	B組 研究係 指導 原 鈴木
展開Ⅰ 15分	<b>問題提起</b> これまでの経過報告 模造紙 実物投影機等使用	A B組 ショコラ 班 指導 川田
展開Ⅱ 10分 10分 30分	<b>パネルディスカッション</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際平和についての自分たちの意見発表</li> <li>② 国際平和についての海外の意見発表</li> <li>③ ①②に関して保護者からの意見</li> <li>④ ①②に関して院生からの意見</li> <li>⑤ ①②に関して留学生からの意見</li> <li>⑥ 自由討論</li> </ol>	A B組 ショコラ 班 A B組 フロアー 司会 松岡 中村 指導 三小田
まとめ 5分	司会者2名が討論されたことを簡潔にまとめる	

## 会場図



研究協議会の様子





### 研究協議会に参加された人たちの声

・ 体を使って考えること、体験を通じて言語や概念を豊かにすることの意味を多少とも感じられたように思います。教科書的な知識の蓄積だけでは、知識は増えても知恵は豊かになりません。

(愛知県 大学校関係)

・ 自由な雰囲気がとてもすばらしく思いました。なんでこんな風な寸劇をやるんだろうと一瞬思いましたが、それもその生徒らしさなんだ、そうやって認められているんだと思い直しました。ただ時間の配分の関係でディスカッションが少なかったのが残念でした。

(静岡県 中学校関係)

・ 時間をたっぷりとてある割に生徒の育ちを確かめるシンポジウムの時間がわずかしかとれなかつたのが、残念でした。ツーウェイの交流として成立していないのは何故か、教師側の課題を感じた。

・ 生徒の運営によっての取り組みが、生徒の主体性を育てるには、よかったです。体験や調査結果、活動状況などと、内容がもりだくさんで楽しく参観できたと思います。しかしディスカッションの時間が短く、十分意見を出し合うことができなかつたのではないかと感じました。留学生や学生の意見を多く聞くことが今後の活動に役立つではないでしょうか。

(長崎県 中学校関係)

・ 人権、平和をテーマにしていたが、本質からずれている。今まで1年間学んできて自らの生活や生き方の課題となっているのか？頭の中で感じたことを発表しただけ。他人事になっている。

・ 構成などはすばらしかったですし、生徒もよくうごいていて感心させられました。しかし、内容的には科学的認識はあれど、とても一人一人が各自の課題としてとらえているとは思えませんでし

た。

(愛媛県 中学校関係)

・ 1学期、2学期、3学期と自分たちの行ってきた体験が伝わってきてきました。3年生だと普通ならば、受験で忙しい時期なのに、これだけ多くの人ができるのはやはり、中高一貫の利点だと思いました。

(群馬県 中学校関係)

など

以上の参観者の声からもわかるように、発表形態にはある程度、満足のいく中身であったのだが、研究発表のまとめとなる、ディスカッションに時間が多くとれず、十分な内容とまでいかなかつたことが残念である。しかし、時間が仮に十分あつたとしてまとまりのあるディスカッションができていたかというと、それもまた疑問に感じる。愛媛の参観者の意見にもあるように、1年間の取り組みが果たして生徒一人一人の根底に根づいていなかつたのではないかだろうか。また自分で調べ、まとめていく能力には、たけているが、それを自分の言葉でそして自分で考えで全体に発表する能力は育つていなかつたのではないかだろうかと考えさせられる。それを今後の大きな課題として残しておきたい。

### おわりに

#### アンケートからの集計報告

##### アンケートから見える1年間のまとめ

国際理解と平和を1年間学習していく上で生徒の気持ちの上での動向や取り組みの変化などを調べるために4月当初と学年の終わりに計2度、同じ内容のアンケートを行つた。

#### 1. アンケートについて

1-1. 国際理解と平和を学習するにあたり、アンケート調査を行つた。

##### (1) アンケートの対象者

① 生徒（第1回時76名 第2回時78名）

② 保護者（全保護者にアンケートを配布。回収枚数26枚）

##### (2) 対象時期

生徒については学習前と学習後の2回、保護者については学習後の一回を対象とした。

#### 1-2. アンケート方法

アンケートは、おもに各質問について下記5段階で回答を得た。内容や考えを問う質問では、記述で解答を得た。

##### (1) 五段階

1：全然当てはまらない

2：少ししか当てはまらない

3：なんともいえない

4：少しあてはまる

5：非常に当てはまる

## (2) アンケート内容

## ① 國際理解と平和についての理解度

(國際理解と平和が何を意味するか、またそれを実現するための知識への理解)

## ② 國際理解と平和についての学習内容

(國際理解と平和の学習に必要と考える内容)

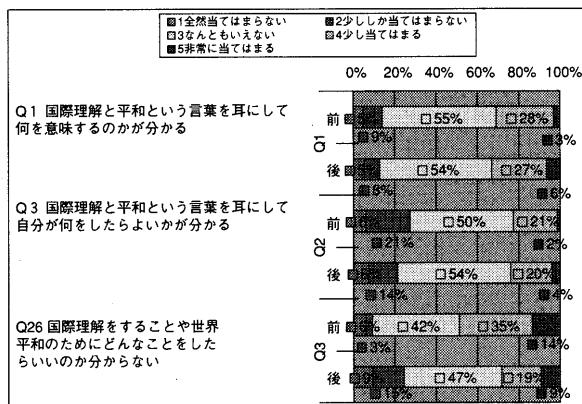
## ③ 界情勢についての関心度

## ④ 國際理解と平和についての学習経験

(國際理解と平和についての学習や実際に行動した経験の有無)

## 2. 学習前後のアンケートの比較

## 2-1 國際理解と平和についての理解度

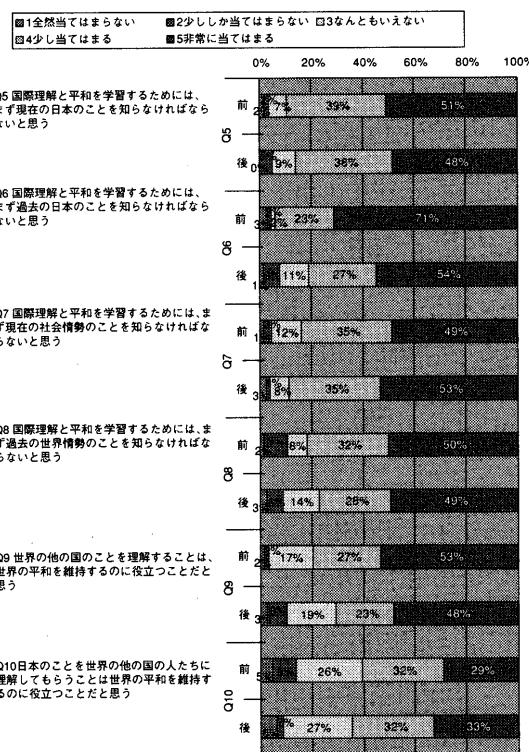


3つの質問結果からみてみると「少し当てはまる」「非常に当てはまる」と答えた生徒の合計数がすべての項目に対してポイントを少しではあるが伸ばしていることがわかる。特にQ26に関しては大きく国際理解や世界平和のために何をしたらよいのかある程度は理解している生徒が増えたことが特徴的である。具体的にどんなことをしたらよいかわかった生徒の考え方(Q2、Q4)を紹介しておく。

- 違う国の文化を理解しようとし、意見交換をして平和な世界を目指す。
- お互いの国が助け合って、それぞれの問題を理解する。
- 人間を差別しない。見た目で判断しない。
- いろんな国の人などについて本やテレビなどで知り、平和学習をしたり、戦争についてまなんだりする。
- 人それぞれが違うのだからお互いにそれを認め合って武器をとらないように人それぞれが幸せだと思う世界が平和だと思う。

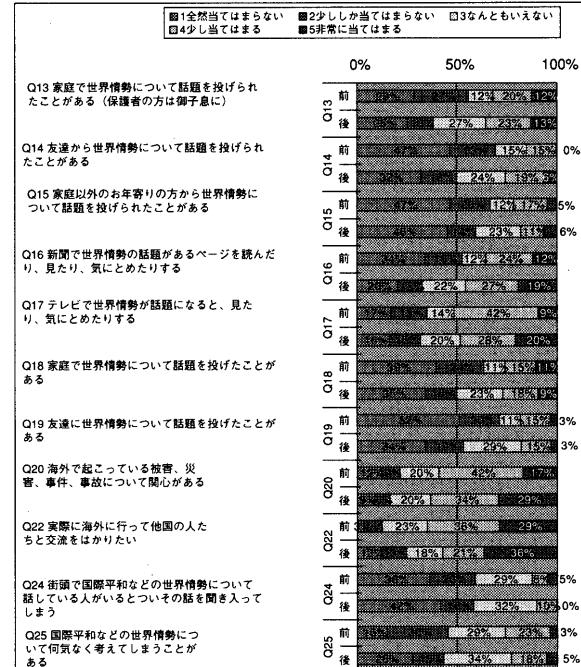
など

## 2-2. 国際理解と平和についての学習内容



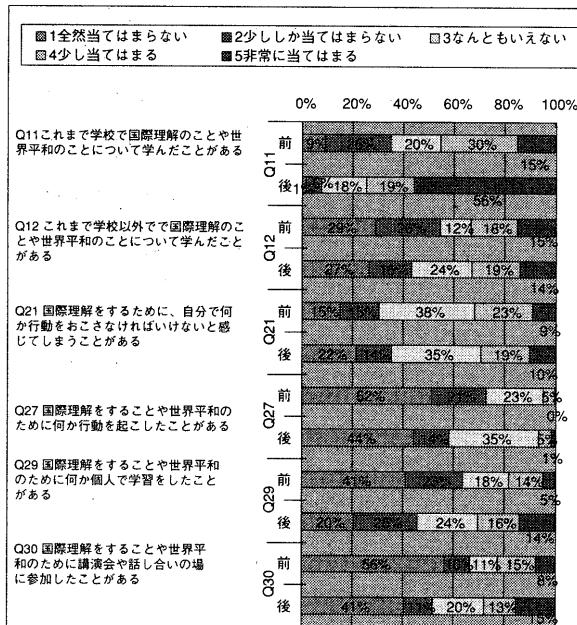
全体的に4月の段階と学習後の3月の段階で大きな変化が見られないが、1つだけ気になる点がある。Q6、Q8で学習後の段階で国際理解や国際平和のために、過去の段階での日本について学ぶことに意味があると感じている生徒がQ6で13%、Q8でも5%減少したことである。このことは、新たな世界感、世界平和を築きあげていくためには過去の出来事は過去のものとして、それにあまりとらわれなくてもよいということの表れであろうか。

## 2-3 世界情勢についての関心度



全体的に世界情勢に関する関心度は1年間でかなり上がっているという結果となった。中でもQ16、Q17、Q20の割合が増えていることは授業の成果であると感じる。その反面、友達や家庭内においてのこの種に関する話題が乏しく、関心度が個人の段階にとどまっていることが、学習内容の消化不良気味となっている原因の一つではないだろうか。

## 2-4. 国際理解と平和についての学習経験



当然ながら1年間総合人間科で学んできたわけであるから、4月当初よりも、学習経験がすすんだという結果になるのは当然である。しかし、1年間学習したのだが、Q27、Q29、Q30において3月段階においてもなお国際理解・国際平和に関して「学習したことがない（あまりない）」「話し合いに参加したことがない（あまりない）」と回答している生徒が40%程度いる。これは、40%の生徒が意欲的に1年間総合人間科に参加はできなかったことを物語っているのではないだろうか。教師側の動機付け、問題定提起に課題を残したといえるかもしれない。

「アンケート結果」の最後に2つの質問に対する代表的な意見を叙述しておく。

### Q31

- ・ 他国の人を知るよりも多くの人と交流を深めることが大切
- ・ 人間という生き物自体が国際理解や平和の維持が不可能な生物ではないか
- ・ 国と国の人をもっと知ること
- ・ 武装解除
- ・ 他国文化を認めるだけでなく、自国文化も主張する

- ・ 興味を持って、自分から進んで学ぼうとする。など

### Q32

- ・ 他国の人をあまり知らない
  - ・ 他の国は現在どのような状況におかれているのかを理解していないこと。
  - ・ みんなが協力してなくて、一部の人だけががんばっている気がする。
  - ・ 人種差別をしている。
  - ・ 日本の考え方だけで判断している。
- など

## 1年間総合人間科で「国際理解・人権・平和」を学習してきた生徒のコメント

(男子)

- ・ 今回のテーマは難しかった。考えるほどわけがわからなくなってしまった。もう少し考える時間。話し合う時間がほしかった。まだ足りない。
- ・ 最初に広島の原爆についてのビデオをみた時は、気持ち悪くなるので嫌だった。でもだんだん目をそらしてはいけないと感じ始めちゃんと見れるようになった。今年1年で戦争などの起こる原因や最近の戦争についての理解を深め、これからどのようなことができるかが少しあわかってきた。
- ・ 総合人間科の授業を1年間行なってきたが、感想はいろいろなテーマを調べてきたが、どれもおもしろいとは思えませんでした。
- ・ 今年の総合人間科は良かったと思う。やりがいもあり、考えることも多かった。しかし先生がひかれたレールの上を私たちは通ってきた気がする。もっと自由に戦争を学べたらよかったと思う。それに事前に戦争を学ぶ意味とか目的をはっきりさせておいたほうがよかったです。僕は今となって少しあわかって気がするが、討論の時には疑問を感じていた。だけど総合して考えるとよかったです。
- ・ 今年は平和学習ということでしたが、本当に平和になりたいなら、日本は侵略した国々に謝罪し、アメリカも原爆を落としたことを謝罪しなければならないと思った。この学習で、普通の人が殺人鬼と化してしまう戦争の恐ろしさと平和であることのすばらしさを知ることができた。

(女子)

- ・ 1年間の総合人間科平和学習を終えて、地球上に争いの種となる人間が存在する限り、真実の「平和」といわれるものはありえないのではないか

いかと思った。人はそれぞれ考えることが違う。平和を望む人が大部分だけれども、あと時腹を立てて人を憾む事を覚えれば其処は眞実の「平和」は存在しない。そうして人類は戦争というものを起こしてきた。現在「平和にしよう」という人が一般だが、本当に平和がおとずれるのは人類が滅亡した時だと思う。

私は今年の総合人間科でいろいろな事を学びました。広島へ行って戦争の被害のことをいろいろ学べたし、教科書には載っていない加害のことも学べて、戦争は2度とおこしてはいけないと改めて思いました。これからも「戦争と平和」について考えていくべきだと思います。

戦争には良い点と悪い点がある。戦争によって国が発展し、一時的な経済成長が望める。けれど戦争は人を殺す。尊い命が一瞬にして奪われる。そして自然を破壊する。戦争をなくすことはできないかもしない。けれど戦争をなくす努力はできると思う。

戦争と平和というテーマでたくさんのこと学ぶことができました。戦争がなければ平和であるとは思いません。一人一人の心の中で平和を願う思いがあればいいと思います。

1学期このテーマで勉強し始める前は私は戦争に対して「残酷だ。こんなことをした兵隊さんたちはなんてひどい人間なんだろう」という考えだったと思います。それが戦争を体験したおばあさんの話しを聞いたり、広島に行ったり、様々な映像を見るうちにだんだん変わってきました。考えがかわったということはそれだけたくさん勉強したということでしょう。しかし今でも答えきれない疑問がひとつだけあります。それはあの研究協議会でだされた「平和とは何か。戦争とはなにか」という問題です。ただ私は皆が幸福なら平和だと思うのですが。

今回の総合人間科では冒頭でも述べたように、これまで日本が歩んできた過去のできごとを被害、加害の両側面から追体験し、理解を深めることを第一の目標よし、そして、最終的には、これから世界平和、国際理解について意見をもち発表することがねらいであった。その点、1学期、2学期と2度のフィールドワークを行い、自分たちが知ろうとする課題を追求することができたのは成果であると思う。しかしながら、1年間を終えてみて以下の課題が残った。

### 1. 4月でのテーマに関する導入、生徒への動機付け

導入の段階、なぜ今年は「国際理解と平和」について学習するのかという意義がすべての生徒たちに伝

わっていなかったことがある。ただ単に修学旅行で広島に行く。そのためには事前学習として戦争に関連したことを学習していくことが必要だ。とただそれだけの理解にとどまっていた生徒たちが多かったのではないかだろうか。もっと大きな視野に立つ必要があった。

### 2. テーマが漠然として大きすぎた

始めのねらいとしては、テーマを絞るとそれだけ生徒たちの活動に制限がでるのではないかという考え方から、あえてテーマを大きくし、漠然としたものにした。しかし、生徒が求めてきたものは、いったい何をしたいのかよくわからない。具体的に方向を示して欲しいということであった。これも導入段階でのしっかりととした指針がなされていれば、乗り越えられた問題ではなかっただろう。

### 3. グループ学習

2年生では個人学習を中心に自分のテーマでことを進めてきたので、自分の好きなペースで個人学習を遂行できた。しかし、中学3年生はグループ学習が大前提で例年行われているために、他の仲間とともに学習していくことがうまくいかない生徒が少なからずいたことは確かである。何もしなくとも他の人がすすめてくれるので興味がわかならない。自分ではやりたくないことなのに、グループ内での方向性は決まってしまった。といったグループ学習ならではの個人の課題が残った。

大きくわけて以上のような課題があげられる。その結果、生徒の1年間の感想からのあるように、先生がしいたレールの上を僕たちが通っていった。戦争について学んでいく意義がよくわからなかった。討論テーマが大きすぎて、意見をいうことができなかつた。自分のやりたいことが十分できなかつた。といった感想がでてくる。

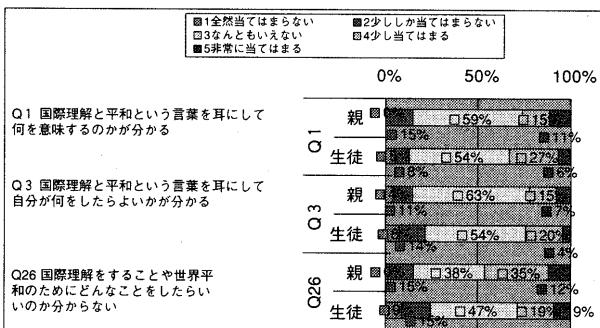
しかしながら、自分の中でテーマを理解して学習している多くの生徒たちは、非常に充実した学習が行われたと述べている。このような生徒たちは確かにグループ活動の中心的な生徒であり、討論でも自分の意見をしっかり持ち発言できた生徒に多い。そのような生徒たちは、これをこの学習を機会に、さらに学習を深め、広げていく必要性を感じている。

個人学習においても、グループ学習においても、基本的なことは、総合人間科を授業として教員にやらされている感じることではない。自分でテーマを理解し、自分で自由に課題を見つけ、意欲的に学習する姿勢こそが1年間中身の濃い学習をしていく秘訣である。これをサポートしていくのが指導者であり、教員であるのでしょうかが、なかなか思うように事が運ばないのが現実である。

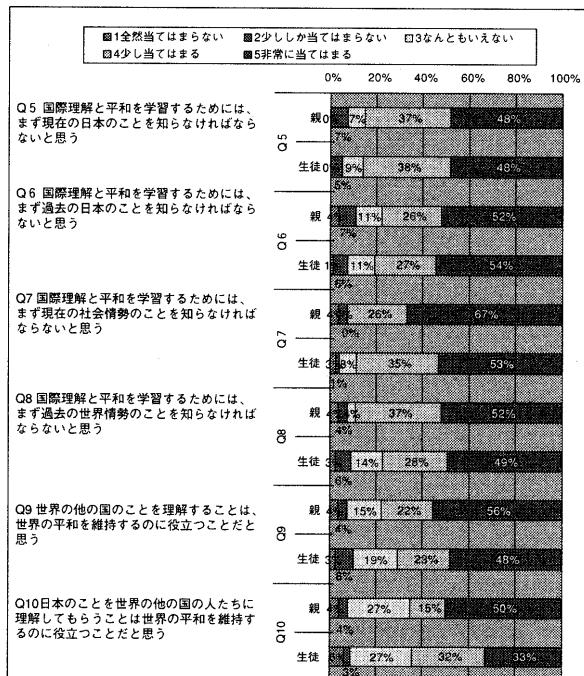
## 補足

今回の総合学習が校内だけでなく、その範囲を郊外に、そして保護者をも引き込もうとすることもねらいであった。保護者に対しても討論に参加していただき、またアンケートなどにも答えていただく機会をもった。なかなか多くの保護者の意見を聞くことは難しかったが。アンケートの質問項目は生徒のものとまったく同じで、アンケートの時期は3月に行った。26名の保護者から回答をいただいたので生徒の3月段階のものと比較するという形でまとめた。

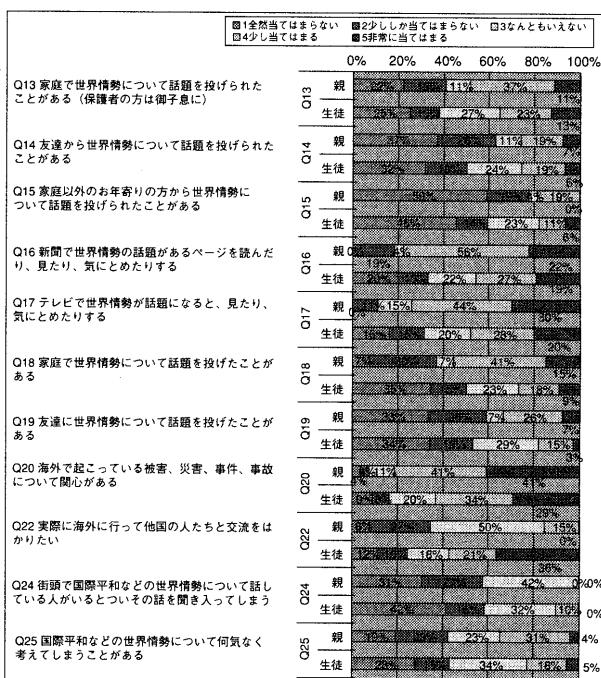
## 理解度



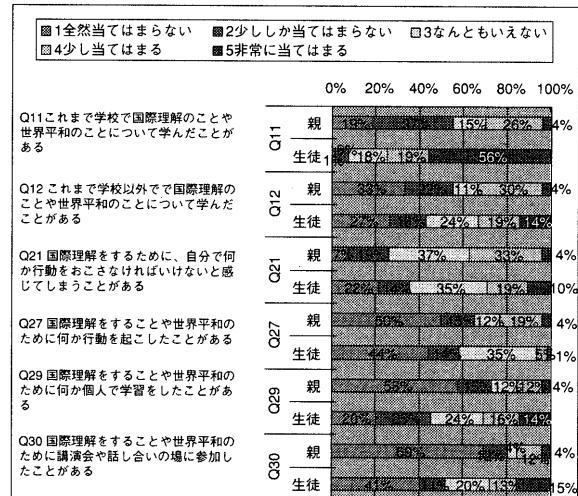
## 学習内容



## 関心度



## 学習経験



## Q31

- 思想、利害関係から離れ過去から現在に至る事実を把握すること。
- 異国感の相互交流が低年齢の頃からできるといいと思う。
- 日本のみならず地球全体が国際協力なしでは存在しない状況に陥っていることを常に意識している。
- もっと英語が聞けたり話せたりできるようになること。

## Q32

- 外国の人たちと交流がとれるといいと思います。

- ・ 外国人を受け入れる心（どうしても無視してしまった島国根性）
- ・ 自我をころしてのコミュニケーション。
- ・ 小さなグループでまとまるのではなく、井の中の蛙大海をしらずのたとえのように視界を外に向ける意思。
- ・ 画一化された既成概念だけが正しいと考えないで人の考え方、感じ方、物の見方には千差万別あってあたりまえとする態度。他人の価値観を尊重する気持ち